

平成 20 年 1 月 16 日

東北大学大学院理学研究科物理学専攻  
本堂 毅 様

(社)電子情報通信学会  
会長 富永 英義



2007年12月25日付けのお手紙受領致しました。

今回のお手紙にあります2007年9月18日付けの手紙につきましては、前回（2007年6月28日付け回答）と同じに通信ソサイエティ英文論文誌編集委員会へ対応を依頼してあります。

つきましては、今後のご連絡は「通信ソサイエティ英文論文誌編集委員会」宛にお願い致します。

平成 20 年 1 月 16 日

東北大学大学院理学研究科物理学専攻  
本堂 毅 様

(社)電子情報通信学会  
通信ソサイエティ英文論文誌編集委員会



2007年9月18日付けの手紙ならびに12月25日付けのお手紙受領致しました。  
お問合せ賜りました件につきましては、2007年6月28日付けでご回答申し上げたと  
おりであります。以下に追加説明をさせていただきます。

本編集委員会では、論文の査読に際して、前提・結論等を信頼し得る何らかの根拠が示  
してあることを採録の基準としております。これは通信ソサイエティにて制定した「英文  
論文誌査読要領及び基準」にも記されており、本編集委員会と致しましてはこれに則り慎  
重に審議を行っております。また同時に本会「倫理綱領」に従い運用していることも申し  
添えます。

本編集委員会担当の英文論文誌は、情報通信の工学分野の学術的論文発表や掲載論文の  
著者との誌上討論を通して、多くの方に利用され、結果として社会に役に立つ情報交換の  
場となることを願っております。重要な点は発表された論文の内容につきましては著者に  
責任があります。著者との誌上討論は歓迎されています。以前に申し上げましたとおり、  
非会員からの投稿であっても編集委員会の判断によって受け付けさせて頂くこともありま  
す。掲載論文の内容に関して著者との誌上討論は、レターの投稿と同様に、査読がありま  
すが、2回までの投稿が内規により認められておりますので、ご利用下さいますようお願い  
申し上げます。